



スイッチ プロファイルの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [スイッチ プロファイルの概要 \(1 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル：コンフィギュレーション モード \(2 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションの検証 \(3 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード \(4 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの前提条件 \(4 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項 \(5 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの設定 \(6 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルへのスイッチの追加 \(9 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更 \(10 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのインポート \(13 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルのコマンドの確認 \(15 ページ\)](#)
- [ピア スイッチの分離 \(16 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの削除 \(17 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルからのスイッチの削除 \(18 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル バッファの表示 \(19 ページ\)](#)
- [スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化 \(20 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイル設定の show コマンド \(21 ページ\)](#)
- [サポートされているスイッチ プロファイル コマンド \(21 ページ\)](#)
- [スイッチ プロファイルの設定例 \(23 ページ\)](#)

スイッチ プロファイルの概要

複数のアプリケーションは、Cisco Nexus シリーズ スイッチ間で整合性のある構成が必要です。たとえば、仮想ポートチャネル (vPC) を使用する場合、同じ設定にする必要があります。コンフィギュレーションが一致しない場合、エラーやコンフィギュレーションエラーが生じる可能性があります。その結果、サービスが中断することがあります。

設定の同期（**config-sync**）機能では、1つのスイッチ プロファイルを設定し、設定を自動的にピアスイッチに同期させることができます。スイッチ プロファイルには次の利点があります。

- スイッチ間でコンフィギュレーションを同期化できます。
- 2つのスイッチ間で接続が確立されると、コンフィギュレーションがマージされます。
- どのコンフィギュレーションを同期化するかを完全に制御できます。
- マージチェックおよび相互排除チェックを使用して、ピア全体でコンフィギュレーションの一貫性を確保します。
- **verify** 構文および **commit** 構文を提供します。
- ポート プロファイル コンフィギュレーションの設定および同期化をサポートします。
- 既存の vPC コンフィギュレーションをスイッチ プロファイルに移行するためのインポート コマンドを提供します。

スイッチ プロファイル：コンフィギュレーションモード

スイッチ プロファイル機能には、次のコンフィギュレーション モードがあります。

- コンフィギュレーション同期化モード
- スイッチ プロファイル モード
- スイッチ プロファイル インポート モード

コンフィギュレーション同期モード

コンフィギュレーション同期モード（**config-sync**）では、プライマリとして使用するローカルスイッチ上で **config sync** コマンドを使用して、スイッチ プロファイルを作成できます。プロファイルの作成後、同期するピア スイッチで **config sync** コマンドを入力できます。

スイッチ プロファイル モード

スイッチ プロファイル モードでは、後でピア スイッチと同期化されるスイッチ プロファイルに、サポートされているコンフィギュレーション コマンドを追加できます。スイッチ プロファイル モードで入力したコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。

スイッチ プロファイル インポート モード

以前のリリースからアップグレードする場合、**import** コマンドを入力して、サポートされている実行コンフィギュレーション コマンドをスイッチ プロファイルにコピーすることができます。**import** コマンドを入力すると、スイッチ プロファイル モード（**config-sync-sp**）は、スイッチ プロファイル インポート モード（**config-sync-sp-import**）に変わります。スイッチ プロファイル インポート モードでは、既存のスイッチ設定を実行コンフィギュレーションからインポートし、どのコマンドをスイッチ プロファイルに含めるかを指定できます。

スイッチ プロファイルに含まれるコマンドはトポロジによって異なるため、**import** コマンドモードでは、インポートされたコマンドセットを特定のトポロジに合わせて変更できます。

インポート プロセスを完了し、スイッチ プロファイルにコンフィギュレーションを移動するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。インポートプロセス中のコンフィギュレーション変更はサポートされていません。そのため、**commit** コマンドを入力する前に新しいコマンドを追加した場合、スイッチ プロファイルは保存されていない状態であり、スイッチはスイッチ プロファイル インポート モードのままになります。追加したコマンドを削除するか、またはインポートを中断します。プロセスを中断すると、保存されていないコンフィギュレーションは失われます。インポートを完了したら、新しいコマンドをスイッチ プロファイルに追加できます。

コンフィギュレーションの検証

次の2種類のコンフィギュレーション検証チェックを使用して、2種類のスイッチ プロファイル エラーを識別できます。

- 相互排除チェック
- マージ チェック

相互排除チェック

スイッチ プロファイルに含まれるコンフィギュレーションが上書きされる可能性を減らすためには、相互排除 (**mutex**) でスイッチ プロファイル コマンドをローカル スイッチに存在するコマンドとピア スイッチのコマンドに照合してチェックします。スイッチ プロファイルに含まれるコマンドは、そのスイッチ プロファイルの外部またはピア スイッチでは設定できません。この要件により、既存のコマンドが意図せずに上書きされる可能性が減少します。

ピア スイッチに到達可能である場合、**mutex** チェックは、共通プロセスの一環として両方のスイッチで行われます。それ以外の場合は、**mutex** チェックはローカルで実行されます。設定端末から行われるコンフィギュレーション変更は、ローカル スイッチのみに反映されます。

mutex チェックがエラーを識別すると、**mutex** の障害として報告され、手動で修正する必要があります。

相互排除ポリシーには、次の例外が適用されます。

- インターフェイス設定：ポート チャネル インターフェイスは、スイッチ プロファイル モードまたはグローバル コンフィギュレーション モードで設定が済んでいる必要があります。



(注) 一部のポート チャネル サブコマンドは、スイッチ プロファイル モードで設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポート チャネルがスイッチ プロファイル モードで作成、設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでのみ設定可能です。

switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan

- shutdown/no shutdown
- System QoS

マージチェック

マージチェックは、コンフィギュレーションを受信する側のピア スイッチで実行されます。マージチェックは、受信したコンフィギュレーションが、受信側のスイッチにすでに存在するスイッチ プロファイル コンフィギュレーションと競合しないようにします。マージチェックは、マージプロセスまたはコミット プロセス中に実行されます。エラーはマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

1 つまたは両方のスイッチがリロードされ、コンフィギュレーションが初めて同期化される際には、マージチェックによって、両方のスイッチのスイッチ プロファイル コンフィギュレーションが同じであることが検証されます。スイッチ プロファイルの相違はマージエラーとして報告され、手動で修正する必要があります。

スイッチ プロファイルを使用したソフトウェアのアップグレードとダウングレード

以前のリリースにダウングレードすると、以前のリリースではサポートされていない既存のスイッチ プロファイルを削除するように要求されます。

以前のリリースからアップグレードする場合、スイッチ プロファイルに一部の実行コンフィギュレーション コマンドを移動することを選択できます。**import** コマンドでは、関連するスイッチ プロファイル コマンドをインポートできます。バッファされた（コミットされていない）コンフィギュレーションが存在する場合でもアップグレードを実行できますが、コミットされていないコンフィギュレーションは失われます。

スイッチ プロファイルの前提条件

スイッチ プロファイルには次の前提条件があります。

- **cfs ipv4 distribute** コマンドを入力して、両方のスイッチで **mgmt0** 上の Cisco Fabric Series over IP (CFSolP) 配信を有効にする必要があります。
- **config sync** および **switch-profile** コマンドを入力して、両方のピア スイッチで同じ名前のスイッチ プロファイルを設定する必要があります。
- **sync-peers destination** コマンドを入力して、各スイッチをピア スイッチとして設定します。

スイッチ プロファイルの注意事項および制約事項

スイッチプロファイルを設定する場合は、次の注意事項および制約事項を考慮してください。

- **mgmt0** インターフェイスを使用してのみ設定同期化をイネーブルにできます。
- 設定の同期は、**mgmt 0** インターフェイスを使用して実行され、管理 **SVI** を使用して実行できません。
- 同じスイッチ プロファイル名で同期されたピアを設定する必要があります。
- スイッチ プロファイル設定で使用可能なコマンドを、設定スイッチ プロファイル (**config-sync-sp**) モードで設定できます。
- 1つのスイッチプロファイルセッションを一度に進行できます。別のセッションの開始を試みると失敗します。
- スイッチ プロファイルセッションの進行中は、コンフィギュレーション端末モードから実行されたサポートされているコマンドの変更はブロックされます。スイッチプロファイルセッションが進行しているときは、コンフィギュレーション端末モードからサポートされていないコマンドの変更を行わないでください。
- **commit** コマンドを入力し、ピア スイッチに到達可能である場合、設定は、両方のピア スイッチに適用されるか、いずれのスイッチにも適用されません。コミットの障害が発生した場合、コマンドは、スイッチ プロファイルバッファに残ります。その場合、必要な修正をし、コミットを再試行します。
- いったんスイッチ プロファイル モードで設定したポート チャネルを、グローバル コンフィギュレーション (**config terminal**) モードで設定することはできません。



(注) ポート チャネルに関する一部のサブコマンドは、スイッチ プロファイル モードでは設定できません。ただしこれらのコマンドは、ポート チャネルがスイッチ プロファイル モードで作成、設定されている場合でも、グローバル コンフィギュレーション モードからであれば設定することができます。

たとえば、次のコマンドはグローバル コンフィギュレーション モードでのみ設定可能です。

switchport private-vlan association trunk primary-vlan secondary-vlan

- shutdown および no shutdown は、グローバル コンフィギュレーション モードとスイッチ プロファイル モードのどちらでも設定できます。
- ポートチャネルをグローバルコンフィギュレーションモードで作成した場合は、メンバー インターフェイスを含むチャネル グループも、グローバル コンフィギュレーション モードを使用して作成する必要があります。
- スイッチ プロファイル モードで設定されたポート チャネルには、スイッチ プロファイル の内部と外部どちらからもメンバーにすることができます。
- メンバー インターフェイスをスイッチ プロファイルにインポートする場合は、メンバー インターフェイスを含むポート チャネルがスイッチ プロファイル内にも存在する必要があります。
- インターフェイスをデフォルトにしても、そのインターフェイスの config-sync 構成からチャネルグループは削除されません。config-sync モジュールによって競合する構成がプッシュされるのを防ぐために、**no channel-group** コマンドをインターフェイスに適用するか、config-sync 構成にポート チャネルを含める必要があります。

接続の切断後の同期化の注意事項

- mgmt0 インターフェイスの接続が失われた後の設定の同期化：mgmt0 インターフェイスの接続が失われ、設定変更が必要な場合は、スイッチ プロファイルを使用して、両方のスイッチの設定変更を適用します。mgmt0 インターフェイスへの接続が復元されると、両方のスイッチが自動的に同期されます。

設定変更を1台のスイッチだけで実行する場合、マージは、mgmt0 インターフェイスが起動し、設定が他のスイッチに適用されると実行されます。

スイッチ プロファイルの設定

スイッチ プロファイルは作成および設定できます。コンフィギュレーション同期モード (config-sync) で、**switch-profile name** コマンドを入力します。

始める前に

スイッチプロファイルは、各スイッチで同じ名前を使用して作成する必要があります。また、スイッチは互いにピアとして設定する必要があります。同じアクティブなスイッチプロファイルが設定されたスイッチ間で接続が確立されると、スイッチプロファイルが同期化されます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **cfs ipv4 distribute**
3. **config sync**
4. **switch-profile name**
5. **sync-peers destination IP-address**
6. (任意) **show switch-profile name status**
7. **exit**
8. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	cfs ipv4 distribute 例 : <pre>switch(config)# cfs ipv4 distribute switch(config)#</pre>	ピア スイッチ間の CFS 配信をイネーブルにします。
ステップ 3	config sync 例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 4	switch-profile name 例 : <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	sync-peers destination IP-address 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#</pre>	ピア スイッチを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	(任意) show switch-profile name status 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#</pre>	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルおよびピア スイッチ情報を表示します。
ステップ 7	exit 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

例

次に、スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルのステータスを表示する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status
Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010
End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010

Profile-Revision: 1
Session-type: Initial-Exchange
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```


スイッチ プロファイルへのスイッチの追加

スイッチ プロファイル コンフィギュレーション モードで **sync-peers destination destination IP** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルにスイッチを追加します。

スイッチを追加する場合は、次の注意事項に従ってください。

- スイッチは IP アドレスで識別されます。
- 宛先 IP は同期するスイッチの IP アドレスです。
- コミットされたスイッチ プロファイルは、ピア スイッチでも設定の同期が設定されている場合に、新しく追加されたピアと（オンラインの場合）同期されます。

メンバー インターフェイスをスイッチ プロファイルにインポートする場合は、メンバー インターフェイスを含むポート チャネルがスイッチ プロファイル内にも存在する必要があります。

始める前に

ローカル スイッチでスイッチ プロファイルを作成した後、同期に含まれる 2 番目のスイッチを追加する必要があります。

手順の概要

1. **config sync**
2. **switch-profile name**
3. **sync-peers destination destination IP**
4. **exit**
5. （任意） **show switch-profile peer**
6. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例： <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch-profile name 例： <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	sync-peers destination destination IP 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチ プロファイルにスイッチを追加します。
ステップ 4	exit 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) show switch-profile peer 例 : <pre>switch# show switch-profile peer</pre>	スイッチプロファイルのピアの設定を表示します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

スイッチ プロファイルのコマンドの追加または変更

スイッチ プロファイルのコマンドを変更するには、変更されたコマンドをスイッチ プロファイルに追加し、**commit** コマンドを入力してコマンドを適用し、ピア スイッチが到達可能な場合にスイッチ プロファイルを同期します。

スイッチ プロファイル コマンドを追加または変更するときは、次の注意事項に従ってください。

- 追加または変更されたコマンドは、**commit** コマンドを入力するまでバッファに格納されます。
- コマンドは、バッファリングされた順序で実行されます。特定のコマンドに順序の依存関係がある場合（たとえば、QoS ポリシーは適用前に定義する必要がある）、その順序を維持する必要があります。そうしないとコミットに失敗する可能性があります。**show switch-profile name buffer** コマンド、**buffer-delete** コマンド、**buffer-move** コマンドなどのユーティリティ コマンドを使用して、バッファを変更し、入力済みのコマンドの順序を修正できます。

始める前に

ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを設定したら、スイッチ プロファイルにサポートされているコマンドを追加し、コミットする必要があります。コマンドは、**commit** コマンドを入力するまでスイッチ プロファイルバッファに追加されます。**commit** コマンドは次を行います。

- **mutex** チェックとマージチェックを起動し、同期を確認します。
- ロールバック インフラストラクチャでチェックポイントを作成します。
- ローカル スイッチおよびピア スイッチのコンフィギュレーションを適用します。
- スイッチプロファイル内の任意のスイッチでアプリケーション障害がある場合は、すべてのスイッチでロールバックを実行します。
- チェックポイントを削除します。

手順の概要

1. **config sync**
2. **switch-profile name**
3. *Command argument*
4. (任意) **show switch-profile name buffer**
5. **verify**
6. **commit**
7. (任意) **show switch-profile name status**
8. **exit**
9. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch-profile name 例 : <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<i>Command argument</i> 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# interface Port-channel100 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1 switch(config-sync-sp-if)# speed 1000 switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100</pre>	スイッチ プロファイルにコマンドを追加します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	(任意) show switch-profile name buffer 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc buffer switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチ プロファイルバッファ内のコンフィギュレーション コマンドを表示します。
ステップ 5	verify 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# verify</pre>	スイッチ プロファイルバッファ内のコマンドを確認します。
ステップ 6	commit 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# commit</pre>	スイッチ プロファイルにコマンドを保存し、ピアスイッチと設定を同期します。
ステップ 7	(任意) show switch-profile name status 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status switch(config-sync-sp)#</pre>	ローカルスイッチのスイッチプロファイルのステータスとピアスイッチのステータスを表示します。
ステップ 8	exit 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 9	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

例

次に、スイッチ プロファイルを作成し、ピア スイッチを設定し、スイッチ プロファイルにコマンドを追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# cfs ipv4 distribute
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1
switch(config-sync-sp)# interface port-channel100
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# speed 1000
switch(config-sync-sp-if)# channel-group 100
switch(config-sync-sp)# verify
switch(config-sync-sp)# commit
switch(config-sync-sp)# exit
switch#
```

次に、定義されたスイッチプロファイルがある既存のコンフィギュレーションの例を示します。2 番目の例は、スイッチ プロファイルに変更されたコマンドを追加することによって、スイッチ プロファイル コマンドを変更する方法を示します。

```
switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 1-10

switch# config sync
switch(config-sync)# switch-profile abc
switch(config-sync-sp)# interface Ethernet1/1
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 5-10
switch(config-sync-sp-if)# commit

switch# show running-config
switch-profile abc
  interface Ethernet1/1
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 5-10
```

スイッチ プロファイルのインポート

インポートするコマンドのセットに基づいてスイッチプロファイルをインポートできます。コンフィギュレーション ターミナル モードを使用して、次のことを実行できます。

- 選択したコマンドをスイッチ プロファイルに追加する。
- インターフェイスに指定された、サポートされているコマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する。
- サポートされているシステムレベル コマンドを追加する（物理インターフェイス コマンドを除く）。

スイッチ プロファイルにコマンドをインポートする場合、スイッチプロファイル バッファが空である必要があります。

新しいコマンドがインポート中に追加されると、スイッチプロファイルが保存されていないままになり、スイッチはスイッチ プロファイル インポート モードのままになります。**abort** コマンドを入力してインポートを停止します。スイッチプロファイルのインポートの詳細については、「スイッチ プロファイル インポート モード」の項を参照してください。

手順の概要

1. **config sync**
2. **switch-profile name**
3. **import {interface port/slot | running-config [exclude interface ethernet]}**
4. **commit**
5. （任意） **abort**
6. **exit**

7. (任意) **show switch-profile**
8. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch-profile name 例 : <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#</pre>	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	import {interface port/slot running-config [exclude interface ethernet]} 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# import ethernet 1/2 switch(config-sync-sp-import)#</pre>	インポートするコマンドを識別し、スイッチプロファイルインポートモードを開始します。 • <CR> : 選択したコマンドを追加します。 • interface : 指定したインターフェイスのサポートされるコマンドを追加します。 • running-config : サポートされるシステムレベルコマンドを追加します。 • running-config exclude interface ethernet : サポートされるシステムレベルコマンドを追加します (物理インターフェイス コマンドを除く)。
ステップ 4	commit 例 : <pre>switch(config-sync-sp-import)# commit</pre>	コマンドをインポートし、スイッチプロファイルにコマンドを保存します。
ステップ 5	(任意) abort 例 : <pre>switch(config-sync-sp-import)# abort</pre>	インポートプロセスを中止します。
ステップ 6	exit 例 : <pre>switch(config-sync-sp)# exit switch#</pre>	スイッチプロファイルインポートモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	(任意) show switch-profile 例 : switch# show switch-profile	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 8	(任意) copy running-config startup-config 例 : switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

例

次に、**sp** というスイッチ プロファイルに、イーサネット インターフェイス コマンドを除く、サポートされるシステムレベル コマンドをインポートする例を示します。

```
switch(config-vlan)# conf sync
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----

switch(config-sync-sp)# import running-config exclude interface ethernet
switch(config-sync-sp-import)#
switch(config-sync-sp-import)# show switch-profile buffer

switch-profile : sp
-----
Seq-no  Command
-----
3      vlan 100-299
4      vlan 300
4.1    state suspend
5      vlan 301-345
6      interface port-channel100
6.1    spanning-tree port type network
7      interface port-channel105

switch(config-sync-sp-import)#
```

スイッチ プロファイルのコマンドの確認

スイッチ プロファイル モードで **verify** コマンドを入力し、スイッチ プロファイルに含まれるコマンドを確認できます。

手順の概要

1. config sync

2. **switch-profile name**
3. **verify**
4. **exit**
5. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch-profile name 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	verify 例： switch(config-sync-sp)# verify	スイッチプロファイルバッファ内のコマンドを確認します。
ステップ 4	exit 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ピア スイッチの分離

スイッチプロファイルを変更するためにピア スイッチを分離できます。このプロセスは、設定の同期をブロックする場合、または設定をデバッグするときに使用できます。

ピア スイッチを分離するには、スイッチプロファイルからスイッチを削除し、スイッチプロファイルにピア スイッチを追加する必要があります。

一時的にピア スイッチを分離するには、次の手順を実行します。

1. スイッチプロファイルからピア スイッチを削除します。

2. スイッチ プロファイルを変更して、変更をコミットします。
3. `debug` コマンドを入力します。
4. 手順 2 でスイッチ プロファイルに対して行った変更を元に戻し、コミットします。
5. スイッチ プロファイルにピア スイッチを追加します。

スイッチ プロファイルの削除

all-config または **local-config** オプションを選択してスイッチ プロファイルを削除できます。

- **all-config** : 両方のピア スイッチでスイッチ プロファイルを削除します（両方が到達可能な場合）。このオプションを選択し、ピアの1つが到達不能である場合、ローカルスイッチ プロファイルだけが削除されます。**all-config** オプションは両方のピア スイッチでスイッチ プロファイルを完全に削除します。
- **local-config** : ローカル スイッチのみのスイッチ プロファイルを削除します。

手順の概要

1. **config sync**
2. **no switch-profile name {all-config | local-config}**
3. **exit**
4. （任意） **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例 : <pre>switch# config sync switch(config-sync)#</pre>	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	no switch-profile name {all-config local-config} 例 : <pre>switch(config-sync)# no switch-profile abc local-config switch(config-sync-sp)#</pre>	次の手順に従って、スイッチ プロファイルを削除します。 • all-config : ローカル スイッチおよびピア スイッチのスイッチ プロファイルを削除します。ピア スイッチが到達可能でない場合は、ローカル スイッチ プロファイルだけが削除されます。 • local-config : スイッチ プロファイルおよびローカル コンフィギュレーションを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	exit 例： switch(config-sync-sp)# exit switch#	コンフィギュレーション同期モードを終了します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

スイッチ プロファイルからのスイッチの削除

スイッチ プロファイルからスイッチを削除できます。

手順の概要

1. **config sync**
2. **switch-profile** *name*
3. **no sync-peers destination** *destination IP*
4. **exit**
5. (任意) **show switch-profile**
6. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	config sync 例： switch# config sync switch(config-sync)#	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch-profile <i>name</i> 例： switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルを設定し、スイッチプロファイルの名前を設定し、スイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	no sync-peers destination <i>destination IP</i> 例： switch(config-sync-sp)# no sync-peers destination 10.1.1.1 switch(config-sync-sp)#	スイッチプロファイルから指定のスイッチを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	exit 例 : switch(config-sync-sp) # exit switch#	スイッチプロファイルコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	(任意) show switch-profile 例 : switch# show switch-profile	スイッチ プロファイル コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 6	(任意) copy running-config startup-config 例 : switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

スイッチ プロファイル バッファの表示

手順の概要

1. switch# **configure sync**
2. switch(config-sync) # **switch-profile profile-name**
3. switch(config-sync-sp) # **show switch-profileprofile-name buffer**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure sync	コンフィギュレーション同期モードを開始します。
ステップ 2	switch(config-sync) # switch-profile profile-name	指定されたスイッチプロファイルに対するスイッチプロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-sync-sp) # show switch-profileprofile-name buffer	指定されたインターフェイスに対するインターフェイス スイッチ プロファイル同期コンフィギュレーションモードを開始します。

例

次に、sp という名前のサービス プロファイルのスイッチ プロファイル バッファの表示例を示します。

```

switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       vlan 101
1.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3       interface Ethernet1/2
3.1     switchport mode trunk
3.2     switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       interface Ethernet1/2
1.1     switchport mode trunk
1.2     switchport trunk allowed vlan 101
2       vlan 101
2.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)#

```

スイッチのリブート後のコンフィギュレーションの同期化

スイッチプロファイルを使用してピアスイッチで新しい構成をコミット中に Cisco Nexus 3600 プラットフォームスイッチがリブートする場合、リロード後にピアスイッチを同期するには、次の手順を実行します：

手順の概要

1. リブート中にピアスイッチ上で変更された設定を再適用します。
2. **commit** コマンドを入力します。
3. 設定が正しく適用されており、両方のピアが同期されていることを確認します。

手順の詳細

手順

ステップ1 リブート中にピアスイッチ上で変更された設定を再適用します。

ステップ2 **commit** コマンドを入力します。

ステップ3 設定が正しく適用されており、両方のピアが同期されていることを確認します。

例

スイッチ プロファイル設定の show コマンド

次の **show** コマンドは、スイッチ プロファイルに関する情報を表示します。

コマンド	目的
show switch-profile name	スイッチ プロファイル中のコマンドを表示します。
show switch-profile name buffer	スイッチ プロファイル中のコミットされていないコマンド、移動されたコマンド、削除されたコマンドを表示します。
show switch-profile name peer IP-address	ピア スイッチの同期ステータスが表示されます。
show switch-profile name session-history	最後の 20 のスイッチ プロファイルセッションのステータスを表示します。
show switch-profile name status	ピア スイッチのコンフィギュレーション同期ステータスを表示します。
show running-config exclude-provision	オフラインで事前プロビジョニングされた非表示のインターフェイスの設定を表示します。
show running-config switch-profile	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示します。
show startup-config switch-profile	ローカル スイッチのスイッチ プロファイルのスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

これらのコマンドの出力フィールドの詳細については、ご使用のプラットフォームの、システム管理コマンドのリファレンスを参照してください。

サポートされているスイッチ プロファイル コマンド

以下のスイッチ プロファイル コマンドがサポートされています。

- **logging event link-status default**
- **[no] vlan vlan-range**
- **ip access-list acl-name**
- **policy-map type network-qos jumbo-frames**

- **class type network-qos class-default**
- **mtu** *mtu value*
- **system qos**
 - **service-policy type network-qos jumbo-frames**
- **vlan configuration** *vlan id*
 - **ip igmp snooping querier** *ip*
- **spanning-tree port type edge default**
- **spanning-tree port type edge bpduguard default**
- **spanning-tree loopguard default**
- **no spanning-tree vlan** *vlan id*
- **port-channel load-balance ethernet source-dest-port**
- **interface port-channel** *number*
 - **description** *text*
 - **switchport mode trunk**
 - **switchport trunk allowed vlan** *vlan list*
 - **spanning-tree port type network**
 - **no negotiate auto**
 - **vpc peer-link**
- **interface port-channel** *number*
 - **switchport access vlan** *vlan id*
 - **spanning-tree port type edge**
 - **speed 10000**
 - **vpc** *number*
- **interface ethernetx/y**
 - **switchport access vlan** *vlanid*
 - **spanning-tree port type edge**
 - **channel-group** *number* **mode active**

スイッチ プロファイルの設定例

ローカルおよびピア スイッチでのスイッチ プロファイルの作成例

次に、ローカルおよびピア スイッチで正常なスイッチ プロファイル構成を作成する例を示します。

手順の概要

1. ローカルおよびピア スイッチで CFSoIP 配信をイネーブルにします。
2. ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを作成します。
3. スイッチプロファイルが、ローカルおよびピア スイッチで同じであることを確認します。
4. スイッチ プロファイルのコマンドを検証します。
5. スイッチ プロファイルにコマンドを適用し、ローカルとピア スイッチ間の設定を同期させます。

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ローカルおよびピア スイッチで CFSoIP 配信をイネーブルにします。 例： <pre>switch# configuration terminal switch(config)# cfs ipv4 distribute</pre>	
ステップ 2	ローカルおよびピア スイッチでスイッチ プロファイルを作成します。 例： <pre>switch(config-sync)# switch-profile abc switch(config-sync-sp)# sync-peers destination 10.1.1.1</pre>	
ステップ 3	スイッチ プロファイルが、ローカルおよびピア スイッチで同じであることを確認します。 例： <pre>switch(config-sync-sp)# show switch-profile abc status</pre> Start-time: 15801 usecs after Mon Aug 23 06:21:08 2010 End-time: 6480 usecs after Mon Aug 23 06:21:13 2010	

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre> Profile-Revision: 1 Session-type: Initial-Exchange Peer-triggered: Yes Profile-status: Sync Success Local information: ----- Status: Commit Success Error(s): Peer information: ----- IP-address: 10.1.1.1 Sync-status: In Sync. Status: Commit Success Error(s): </pre>	
ステップ 4	スイッチ プロファイルのコマンドを検証します。 例 : <pre> switch(config-sync-sp-if)# verify Verification Successful </pre>	
ステップ 5	スイッチプロファイルにコマンドを適用し、ローカルとピア スイッチ間の設定を同期させます。 例 : <pre> switch(config-sync-sp)# commit Commit Successful switch(config-sync)# </pre>	

同期ステータスの確認例

次に、ローカルとピア スイッチ間の同期ステータスを確認する例を示します。

```

switch(config-sync)# show switch-profile switch-profile status
Start-time: 804935 usecs after Mon Aug 23 06:41:10 2010
End-time: 956631 usecs after Mon Aug 23 06:41:20 2010

```

```

Profile-Revision: 2
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

```

```

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

```

```

Peer information:
-----
IP-address: 10.1.1.1
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

```



```
switch(config-sync)#
```

実行コンフィギュレーションの表示

次に、ローカル スイッチでスイッチ プロファイルの実行コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure sync  
switch(config-sync)# show running-config switch-profile  
  
switch(config-sync)#
```

ローカル スイッチとピア スイッチ間のスイッチ プロファイルの同期の表示

次に、2 台のピア スイッチの同期ステータスを表示する例を示します。

```
switch1# show switch-profile sp status  
  
Start-time: 491815 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010  
End-time: 449475 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010  
  
Profile-Revision: 1  
Session-type: Initial-Exchange  
Peer-triggered: No  
Profile-status: Sync Success  
  
Local information:  
-----  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
Peer information:  
-----  
IP-address: 10.193.194.52  
Sync-status: In Sync.  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
switch1#  
  
switch2# show switch-profile sp status  
  
Start-time: 503194 usecs after Thu Aug 12 11:54:51 2010  
End-time: 532989 usecs after Thu Aug 12 11:54:58 2010  
  
Profile-Revision: 1  
Session-type: Initial-Exchange  
Peer-triggered: Yes  
Profile-status: Sync Success  
  
Local information:  
-----  
Status: Commit Success  
Error(s):  
  
Peer information:
```

```

-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch2#

```

ローカルスイッチとピアスイッチでの確認とコミットの表示

次に、ローカルスイッチおよびピアスイッチで正常に確認とコミットを設定する例を示します。

```

switch1# configure sync
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
switch1(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch1(config-sync-sp)# interface ethernet1/1
switch1(config-sync-sp-if)# description foo
switch1(config-sync-sp-if)# verify
Verification Successful
switch1(config-sync-sp)# commit
Commit Successful
switch1(config-sync)# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.52
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch1(config-sync)# show switch-profile sp status

Start-time: 171513 usecs after Wed Aug 11 17:51:28 2010
End-time: 676451 usecs after Wed Aug 11 17:51:43 2010

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: No
Profile-status: Sync Success

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.52
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

switch1(config-sync)#

switch2# show running-config switch-profile
switch-profile sp
  sync-peers destination 10.193.194.51
  interface Ethernet1/1
    description foo
switch2# show switch-profile sp status

Start-time: 265716 usecs after Wed Aug 11 16:51:28 2010
End-time: 734702 usecs after Wed Aug 11 16:51:43 2010

```

```

Profile-Revision: 3
Session-type: Commit
Peer-triggered: Yes
Profile-status: Sync Success

```

```

Local information:
-----
Status: Commit Success
Error(s):

```

```

Peer information:
-----
IP-address: 10.193.194.51
Sync-status: In Sync.
Status: Commit Success
Error(s):

```

```
switch2#
```

同期の成功と失敗の例

次に、ピア スイッチにおけるスイッチ プロファイルの同期の成功例を示します。

```

switch# show switch-profile abc peer

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : In Sync.
Peer-status           : Commit Success
Peer-error(s)         :
switch1#

```

次に、到達不能ステータスのピアを使用した、ピア スイッチでのスイッチ プロファイルの同期の失敗例を示します。

```

switch# show switch-profile sp peer 10.193.194.52
Peer-sync-status      : Not yet merged. pending-merge:1 received_merge:0
Peer-status           : Peer not reachable
Peer-error(s)         :
switch#

```

スイッチ プロファイル バッファの設定、バッファ移動、およびバッファの削除

次に、スイッチ プロファイル バッファの設定、バッファ移動、バッファ削除を設定する例を示します。

```

switch# configure sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# vlan 101
switch(config-sync-sp-vlan)# ip igmp snooping querier 10.101.1.1
switch(config-sync-sp-vlan)# exit
switch(config-sync-sp)# mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
switch(config-sync-sp)# interface ethernet1/2
switch(config-sync-sp-if)# switchport mode trunk
switch(config-sync-sp-if)# switchport trunk allowed vlan 101

```

```

switch(config-sync-sp-if)# exit
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       vlan 101
1.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
2       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop
3       interface Ethernet1/2
3.1     switchport mode trunk
3.2     switchport trunk allowed vlan 101

switch(config-sync-sp)# buffer-move 3 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
1       interface Ethernet1/2
1.1     switchport mode trunk
1.2     switchport trunk allowed vlan 101
2       vlan 101
2.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete 1
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
-----
Seq-no  Command
-----
2       vlan 101
2.1     ip igmp snooping querier 10.101.1.1
3       mac address-table static 0000.0000.0001 vlan 101 drop

switch(config-sync-sp)# buffer-delete all
switch(config-sync-sp)# show switch-profile sp buffer
switch(config-sync-sp)#

```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。